

市史講座第2回ミニレポート

8月20日(土) 第2回「宍道湖畔に築かれた松江城」(講師:松江市教育委員会文化財課史料編纂室専門官 山根正明)が開かれました。



山根専門官は、堀尾吉晴と忠氏父子が居城と城下町として松江の地を選んだのはなぜかという基本的な問いかけに対して、「兵農分離」と「水の恵みとその活用」という二つの視覚から検討を加えました。松江と他の候補地との比較、末次荘と白潟の成立と機能、大橋川と天神川や計画的に配置された水堀の役割等が論じられました。

110名を超える受講者は、地図や写真を多用した説明に聞き入り、講座の修了後も講師を囲んで熱心な質疑が交わされました。

